

日本最初の郵便切手 竜文切手



明治4年の新式郵便の開始と共に日本で最初の郵便切手が発行されました。この切手は図案が「竜」であり、額面が江戸時代からの貨幣単位である「文」であるため竜文切手と呼ばれています。

種類は四十八文、百文、二百文、五百文の4種類があり、1シート40枚で構成されています。明治6年に均一料金制になるまで郵便料金は距離制であり、最低料金が百文で大坂までが一貫五百文でした。四十八文は重量超過の割増料金用に使われました。

この当時、大蔵省印刷局の前身である紙幣寮はまだ設立されておらず、切手製造は明治2年から太政官札など紙幣製造を請け負っていた京都の銅版師松田敦朝に委託されました。印刷方法は銅凹版（エッチング）で1シートの原版はすべて手彫りであったために切手ごとに微妙な差異がみられます。